

吉崎 光一 論文審査の要旨

論文題目 *Panax* 属植物の成分研究 -何 欽吉が発見した和人参の使用部位の解明と  
トチバニンジンの部位別成分の比較-

審査内容

大変細かく実験を行っており、今後の研究発展が十分に期待出来き、博士論文として問題ない。

論文に関して、一部、訂正・追加部分が有ったが、それを訂正・追加し、問題ないものと判断した。

トチバニンジンの葉及び果実の詳細なサポニンの成分の分離・構造解析を行っており、部位による違い、産地による違いを明らかにしたこと、さらに、何 欽吉が発見した和人参の使用部位のサポニン成分の解明を行い、細根部が薬用人参の成分にもっとも近く、有望であることを解明した点は大いに評価出来る。

発表、質疑応答に関して、心身のバランスを崩し体調が思わしくなかったが、発表は普通であった。質問に対する答えに不備な点が少し見受けられたが、終わった後に答がまずかったことには気づいており、博士としての資質を十分に満足しているものと判断する。

発表会の質問にあった、今後、薩摩竹節人参の細根部が薬用人参の成分と類似していることが判明したので、どのような薬理作用があるか、細根部の水抽出物での生理活性の解明が急がれる。また、単離した成分の糖鎖の違いによる生理活性も行ってほしい。さらに、地域おこしに繋がる栽培育種の研究も進めてほしい。  
博士薬学として今後一層、研究・教育、社会貢献を行ってくれると考える。

審査委員 薬用植物学

准教授

矢原 正治



審査委員 創薬基盤分子設計学

教授

石塚 忠男



審査委員 分子薬化学

准教授

杉浦 正晴

